



2024 年 夏号

LETTERS

公益財団法人
佐倉国際交流基金

〒285-0025
佐倉市錦木町 198 番地 2
TEL・FAX 043-484-6326

わたしたちができる 多文化共生のまちづくり

多文化共生とは「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として、ともに生きていくこと」です。

外国人を観光客や一時的な滞在者としてだけではなく、生活者、地域住民として認識する視点が、以前にも増して求められています。

地域に暮らす人々が地域の一員としてともに認め合い、言葉の壁、心の壁を取り除き、安心して暮らすことができる多文化共生のまちづくりをめざして活動していきます。



日本語講座 ボランティア交流会と研修会の報告



市民ボランティアの協力のもと、外国人の方のために日本語講座を市内6か所の公共施設にて13教室開講し、150名以上の外国人が参加しています。

今春から新加入のボランティアを迎え、総勢50余名で活動しています。日本語講座運営委員会では6月にボランティア交流会と研修会を開催し、昨今の活動状況と学習者の動向、各教室横断の情報交換等を行いました。

研修会では、ボランティア講師の一人でもあり、私立の日本語学校で20年以上の講師経験のある東谷さんがファシリテーターとなり、「日本語教室の役割」と「やさしい日本語の話し方」についてワークショップ形式の演習を行いました。

「モンゴル語でモンゴル語を学ぶ」という直接話法で学ぶ体験時間を通して、改めて聞き慣れない異国の言語を学ぶ側の気持ちになることができ、指導者としての心の寄り添い方や、「やさしい日本語」の使い方の演習を取り入れた実践的な指導方法について考えました。またグループワークなど顔を合わせて意見交換をする時間は、普段異なる教室で活動するボランティア講師の皆さんにとって有意義なものとなりました。

外国人受講生からは義務教育終了後の進学先やアルバイト探し、ごみの出し方やATMの使い方などの日常生活の身近な困りごとの相談を受けることもあるようです。

日本語を指導するだけでなく、同じ市民としてより豊かに生活できるように情報を提供し、支えることが日本語ボランティアの重要な役割の一つになっています。

迷っている外国人のかたへ 伝えてあげよう ごみ分別一覧表 外国語版

佐倉市では「家庭ごみの分別一覧表」を日本語・英語・中国語・スペイン語の4言語で作成し、転入されたかたへ配布しています。市役所や出張所、公民館でも入手できます。

他にもベトナム語、ペルシャ語、韓国語、ミャンマー語の「簡易版ごみの分別案内」は佐倉市のホームページでPDFをダウンロードや印刷することができます。

◆千葉県佐倉市公式ウェブサイト (ページ番号: 5296)

＞組織から探す ＞廃棄物対策課 ＞家庭ごみ 佐倉市家庭ごみの分別一覧表





東邦大学健康科学部看護学科の学生 6 名と教員 2 名が「看護実践の研究 異文化看護コース」の実習として日本語講座を見学されました。

多様な価値観を持ち暮らす人々の理解と、それらの人々の健康生活を支援し、共に生きる社会について考えることが目的で佐倉国際交流基金では 2023 年度から同大学の学生の見学を受入れています。今回はペルー、スリランカ、ボリビア、インドネシア、中国、ネパール、アフガニスタンなど 7 ヶ国の児童が在籍する小中学生の教室とアフガニスタン女性が多く集まる成人の教室に入って交流されました。

成人クラスにおいて、病院での苦勞はとの質問に、外国人からは「診療科が細かく分かれており、どこに受診すればよいか分からない。」「宗教上、男性医師に肌の露出をすることができず、女医を希望するが、必ずいる訳ではないので困っている。」また「医療者の説明が早すぎて理解できない場合がある。」など率直な意見を聞くことができたようです。

他にもボランティア講師が外国人受講生の気持ちに寄り添う姿勢が信頼関係の構築に繋がっている様子や、教室が外国人同士の安心できる居場所になっていることなどが分かったという感想がありました。

「その国の宗教や文化背景など、それぞれに対する関わり方を工夫することが大切である」と相互理解の重要性も体得されたようです。

今回の見学を通して得られた気づきが多くの学びとなり、将来実践の場で役立つことを心から願っています。

イングリッシュサロン

ファシリテーター Jane さんからのメッセージ



Hello everyone, how are you doing? Summer is upon us!

Let me introduce myself to those who aren't participants of the English Salons.

I am Jane Toba and I'm from Great Britain.

I have lived in Sakura City for almost forty years.

I am one of the facilitators for the English Salons from when they started sixteen years ago. The English Salons have successfully carried on to grow to the present!

I'm afraid I don't have any hobbies, I'm a bit of a bore 😞. I do like watching different tv dramas either in Japanese or in English. I watch the English ones on Netflix. I also like listening to British radio.

When I first came to Sakura there weren't many foreigners those who were living here were missionaries.

I felt the neighbors were watching me, they were curious as they didn't know much about foreigners. The neighbors probably felt disappointed and wary of a foreigner living in the neighborhood.

I feel about those foreigners who are here now because of either studying or working.

The neighbors probably feel anxious and dubious about them living in the neighborhood, as they most probably felt the same as when I started to live in Sakura.

The number of foreigners living in Sakura are increasing of which I am glad to see. Mostly are from Asian or Middle Eastern countries. It must be difficult for those foreigners to get used to their new surroundings.

I would like Japanese who are living with foreigners in their neighborhoods to smile, say "Hello" and give some advice on the local rules of putting out rubbish on the right designated collection days.

These foreigners are new to Japan and the area they are living in, please give them time to settle.



私はジェーン・トバです。イギリス出身です。佐倉市に住んでもう 40 年になります。16 年前に始まったイングリッシュサロンのファシリテーターの一人です。イングリッシュサロンは今日まで順調に成長を続けています！

私は残念ながら趣味はありません。ちょっと退屈な人です 😞。日本語か英語でいろいろなテレビドラマを見るのが好きです。英語のドラマは Netflix で見ています。イギリスのラジオを聞くのも好きです。

佐倉にきた当初、外国人はあまりおらず、住んでいたのは宣教師だけでした。

近所の人々が私を見ているように感じました。彼らは外国人についてあまり知らないの、好奇心を持っていました。近所の人たちは、近所に外国人が住んでいることにがっかりして警戒していたのでしょうか。

勉強や仕事で今ここにいる外国人のことを思うと、不安や疑念を抱くでしょう。私が佐倉市に住み始めた時も、おそらく同じ気持ちだったでしょう。

佐倉に住む外国人の数は増えていて、うれしい限りです。ほとんどがアジアや中東の国から来ています。外国人にとって新しい環境に慣れるのは大変でしょう。

近所で外国人と一緒に暮らしている日本人の皆さんには、笑顔で「こんにちは」と挨拶し、ゴミは定められた収集日に出すという地元のルールについてアドバイスをしてあげてほしいです。

外国人は日本や住んでいる地域に慣れていないので、落ち着くまで時間を与えてあげてください。



佐倉市国際文化大学

佐倉市国際文化大学では、公開講座を年に3回開催します。

1回目は6月22日に「岐路に立つ中国の行方ー日本はどのように中国と向き合うべきか」をテーマに公益財団法人 東京財団政策研究所 主席研究員 柯 隆(か りゅう)先生に登壇していただきました。

中国の社会問題に真摯に取り組む経済研究者としての観点から見た分析は、「With China」をキーワードに日本企業の中国ビジネス戦略の在り方など、興味ある内容でした。合間に挟むスモールトークでは、先生のユーモアで会場が笑い声で溢れることもしばしばあり、約300名の聴講者を終始惹きつけ大盛況に終わりました。

公開講座を含む各講座の内容は講義録を作成しホームページで随時公開しています。更には、昨年度までの講義録は年度ごとに製本し、佐倉市内の図書館に寄贈しています。閲覧、貸し出し可能ですのでご覧ください。

今号では佐倉市国際文化大学を裏方として支えている編集部について紹介します。



クールなボランティア

文大編集部 土川英之

佐倉市国際文化大学編集部は、ひとシーズン21回行われる授業の講義録作成を、7人の部員で分担して行っています。作成の手順は、講義をレコーダーで録音し、それを聞きながら文字に起こし、不要な部分をそぎ落とし、項目や見出しを付け、写真や図をはめ込んでいきます。この中でもっとも大変なのが文字起こし。筆者は現役のころ、講演会や座談会を紙面化する作業を経験しましたが、その際、文字起こしは速記会社に依頼していました。そこからの編集作業でさえかなり大変なのに、文字起こしからやっていると入部時に聞かされ、「そんなの絶対無理」とのけぞったものです。

話がうまいと感じた講義でも、あとで録音を聞いてみると、雑談が多かったり、話があちこちに飛んだり、主語や目的語が行方不明になったり、禁止用語が出てきたり、言葉が不明瞭だったり、文法的な齟齬があったり、舌足らずでよく分からなかったりします。また、専門分野で卓越した研究成果を挙げていても、それを素人に分かりやすく説明できる人は多くありません。かみ砕いて説明する能力は、脳内のまったく別の回路が使われるのだと痛感します。

編集担当者は文字起こしをしながら、理解不能なところがあれば講師に尋ねたり、ネットや書物で調べたりします。その結果、講演での話をそのままコピーしたのでは通じにくいとなれば、多少の書き換えや付け足し、文章の入れ替えなどを行い、分かりやすく説得力のある内容に仕上げていきます。こうして完成した講義録を講師に見せると、たまに感謝していただくことがあります。「こういうことが言いたかったんです」「胸のつかえがとれました」「今後の講義のテキストに使います」。編集部員冥利に尽きる瞬間です。講義録は必要なのかという声も耳にしますが、高度なクオリティを保ちながら35年も続いている文大の「生きた記録」として、内外に誇れる貴重なアーカイブと言えるでしょう。

編集作業は確かに大変ですが、それを補って余りある魅力や楽しみがあります。第1に、講師と緊密に接する編集部員には、その道の第一人者と知り合いになれるチャンスがあります。筆者は講義録を仕上げた後も講師に時々メールを送り、いろんな質問をしますが、大概の場合、懇切丁寧な回答をくださいます。そうやって「知の人脈」を増やしていくことは、とてもわくわくする挑戦です。第2に編集作業は脳内のそこかしこを使うので、とても効果的な脳トレとなります。第3に知らない間に文章力やデザインセンスが向上し、ホームページや旅行記などの制作が面白くなってきます。さらに多少なりとも社会貢献をしている実感が味わえるし、下世話な話ですが講義をただで聞くこともできる。このように、少なくとも筆者にとっては、編集部はなかなかクールなボランティアなのです。



演奏しながら講義するジャズミュージシャンの佐藤 洋祐さん



大好きな卓球を披露するアートディレクターの浅葉 克己さん



東京オリンピックの聖火リレーのトーチを見る受講生たち

今後の公開講座

拡大する政府債務

-経済破綻を回避するには-

講師：関東学院大学経済学部

教授 島澤 諭先生

9月14日(土) 13:30～

志津コミュニティセンター

日本のイノベーション力の再構築

講師：一橋大学イノベーション研究センター

教授 江藤 学先生

10月20日(日) 13:30～

志津コミュニティセンター

◆申込み要・参加費無料 定員200名(先着)
各講座の申込みはホームページにて3週間前より受付開始予定



幼児からシニアまで 英語スピーチコンテスト 出場者募集

応募期間 8月19日(月)～9月6日(日) 定員 各部先着20名

開催日: 10月20日(日)

参加費 無料

午前の部 幼児・小学生の発表

午後の部 中・高・大学生～シニアの発表

会場: ミレニアムセンター佐倉 ホール

コンテストの詳細・応募要項・応募申込みはホームページにて ⇒⇒

主催: 佐倉国際交流基金 共催: 佐倉市 後援: 佐倉市教育委員会



ご案内

◆ 国立歴史民俗博物館

【企画展示】

「歴史の未来－過去を伝えるひと・もの・データー」
2024年10月8日(火)～12月8日(日)

【第3展示室特集展示】

「スクワイア家の記憶－ある英国人技術者の遺品から－」
2024年7月23日(火)～10月6日(日)
「歴史・文化の中の鄭成功」
2024年11月26日(火)～2025年1月26日(日)

【くらしの植物苑特別企画】

「伝統の朝顔」
2024年8月7日(水)
～9月8日(日)



「伝統の古典菊」

青打込桔梗渦葉短毛淡藤切咲牡丹

2024年10月29日(火)～11月24日(日)

*開館時間・休館日等、最新情報はホームページ等でご確認ください。
<https://www.rekihaku.ac.jp>

◆ DIC川村記念美術館

「西川勝人 静寂の響き」

期間: 2024年9月14日(土) - 2025年1月26日(日)

時間: 9:30 - 17:00 (入館は16:30まで)

休館日: 月曜(ただし祝日の場合は開館)、9月17日(火)、9月24日(火)、10月15日(火)、11月5日(火)、12月24日(火)
- 1月1日(水)、1月14日(火)

*最新情報は DIC 川村記念美術館 HP でご確認ください。
<https://kawamura-museum.dic.co.jp>



撮影: 渡邊 修

佐倉国際交流基金 事業報告

1 国際相互理解推進事業

- 公開講座
 - 佐倉市国際文化大学
 - 佐倉国際スピーチコンテスト
 - イングリッシュサロン
- ### 2 国際交流活動支援事業
- 国際交流団体へ助成

3 外国人支援事業

- 外国人のための日本語講座
 - 外国人のための生活相談
- ### 4 その他附帯事業
- 国際交流ボランティア
 - 後援事業
 - 国際交流活動等情報提供

当基金は運営ボランティアの皆様と賛助会員様のご理解とご協力の元に運営しております。

ご支援賜り厚くお礼申し上げます。

心より感謝致します。

◇2023 年度決算のあらまし (佐倉市よりの受託事業を含む)

収入の部

基本財産運用収入	2,954,014
会費収入	553,000
事業収入	5,771,225
雑収入	12,954
寄附金 他	50,135
経常収益計	9,341,328

支出の部

事業費	7,959,126
管理費	1,504,411
経常費用計	9,463,537

当期一般正味財産増減額 △122,209

公益財団法人 佐倉国際交流基金 事務局 (SIEF) 関口・村瀬・古澤

〒285-0025 佐倉市鎗木町 198 番地 2 レインボープラザ佐倉 2F

電話・Fax 043-484-6326 (月～金 9:00～17:00) HP: <http://www.sief.jp> Email: info@sief.jp